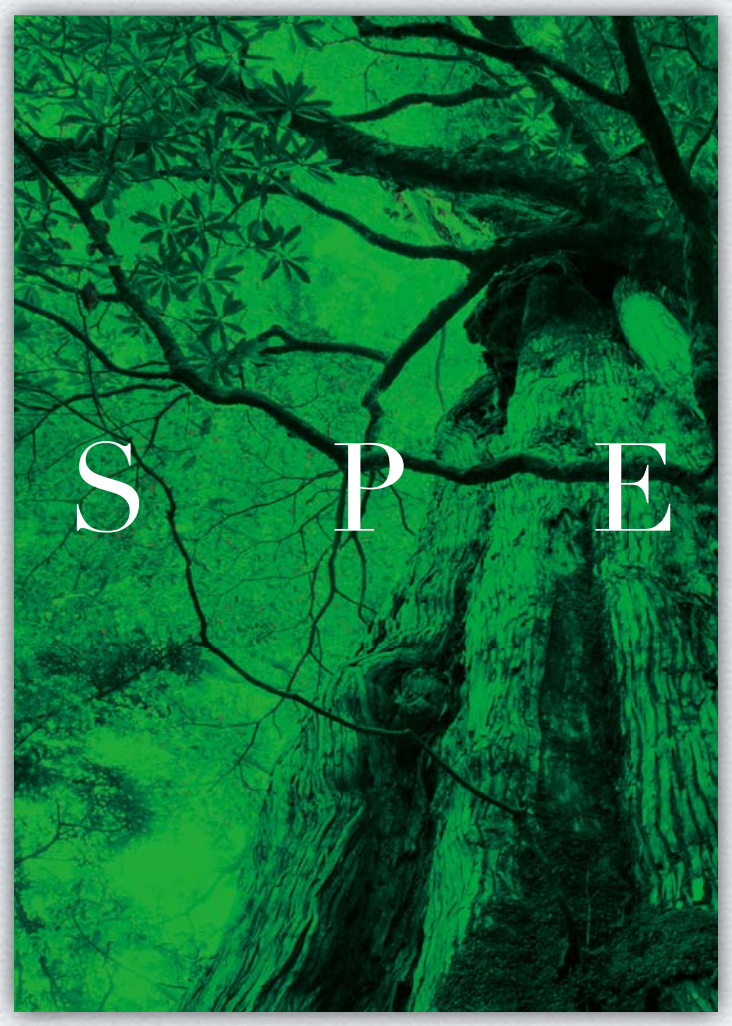
悠久の知恵を吸収し
価値観の〝根〟を
人間性の〝幹〟を
深く、太く。



A S P E N

THE ASPEN INSTITUTE JAPAN

# 日本アスペン研究所のご案内

鹿児島県屋久島、縄文杉。栄養が少ない花崗岩の島にあって、しっかりと根を張り幹を太くしてきた。

だからこそ二千年の時を越え、今なお生き続ける。大空いっぱいに枝葉を伸ばす。

さぁ、価値観の根を張ろう。人間性の幹を太くしよう。

時を越えて変わらない普遍的な価値を学ぶことで、明日に向かって力強く枝葉を伸ばしていこう。

悠久を生きる、この縄文杉のように。

A　S　P　E　N

# 「アスペン」とは…？

## 専門化、効率主義への問題意識を原点とした、世界的な取り組み

「専門分野にとらわれ、全体像を見失っている」…近代社会へのこうした警句を受け、知的な交流の場を提供すべく誕生した米国アスペン研究所。日本アスペン研究所は、その精神を継承しつつ、日本および東洋の古典を加えた独自のプログラムを構築しました。「古典」という素材と「対話」という手段を通じて、将来を展望できるリーダーシップ能力を醸成していきます。

## 日本アスペン研究所のご案内　目 次


| | |
|---|---|
| 「アスペン」の原点 | 4 |
| 「アスペン・セミナー」について | 6 |
| 「エグゼクティブ・セミナー」と「ヤング・エグゼクティブ・セミナー」 | 8 |
| 受託セミナー | 10 |
| 高校生のためのセミナー | 11 |
| 海外ネットワーク | 12 |

# 「アスペン」の原点

## “瑣末化”への警鐘を鳴らした ハッチンスの講演がきっかけに

「アスペン」の原点…それは1949年、米国コロラド州アスペンで行われた「ゲーテ生誕二百年祭*」での、ロバート・ハッチンス（シカゴ大学総長）の講演にさかのぼります。

「“対話の文明”を求めて」と題する講演で、彼は「無教養な専門家による脅威こそ、われわれの文明にとっての最大の脅威である」とし、人間の生き方に関する瑣末化（trivialization）への危機感を表明。人格教育の必要性と、相互の理解・尊敬に基づく対話の重要性を訴えました。

そこで提起された「専門化、細分化、職能主義、効率主義、短期利益主義などの追求により失われる、人間の基本的価値、コミュニケーション、コミュニティを、いかに再構築するか」という課題は、多くの人びとの問題意識を喚起しました。そして1950年、ビジネスリーダー、学者、芸術家たちが日常から解放され、じっくりと語り合い、思索するための理想的な「場」の提供を目的として、アスペン研究所が設立されたのです。

**＊「ゲーテ生誕二百年祭」**

冷戦が進む一方、商業主義が弊害をもたらしつつある中で、人間性溢れるゲーテの生き方が人間精神のあり方の手本になるとして、ロバート・ハッチンスとモーティマー・アドラー、ウオルター・P・ペペケらにより企画された。アルバート・シュバイツアー（哲学者・医者）やホセ・オルテガ・イ・ガセット（哲学者）等、著名な学者や哲学者、芸術家、作家など、2,000人を超える文化人が参加した。

研究所設立の翌年には「アスペン・エグゼクティブ・セミナー」がスタート。モーティマー・アドラー（シカゴ大学教授・哲学）がメソッド開発を担当し、自身が編纂にあたった西欧の名著全集『グレートブックス』から数百ページにおよぶ古典を抜粋してテキストに使用しました。

## 本格的なエグゼクティブ・セミナーを 実現すべく、日本アスペン研究所誕生

やがて日本でも本格的なエグゼクティブ・セミナーを実現したいという機運が高まり、1998年4月、「日本アスペン研究所」が誕生しました。以降、今日まで2,000人以上のリーダーがセミナーに参加。さまざまな分野で活躍を続ける日本の指導者たちに、対話と思索の場を提供しています。

1998年4月3日、日本アスペン研究所誕生。

1949～

## 古典に思索の糧を求めて

日本アスペン研究所
理事長　**北山　禎介**

このたび、日本アスペン研究所設立当初からのリーダーである小林名誉会長の後任として、理事長に就任しました。

1949 年、人間精神の在り方を問う出発点にしたいと、「ゲーテ生誕 200 年祭」がコロラド州アスペンで開催され、哲学者オルテガ・イ・ガセットや人道主義者・哲学者アルバート・シュバイツアーなど多数の哲学者、芸術家、文学者等が招かれ対話が繰り広げられました。

この催しは第二次大戦後、科学技術の発達や、経済の発展に伴い、専門化と細分化、職能主義、効率主義、短期利益主義などの追求によって失われていく人間の基本的価値、コミュニケーション、コミュニティを再構築するにはどうすればいいのか、という問題意識を背景に開催されたものです。

特に、「ゲーテ生誕 200 年祭」における「対話の文明を求めて」というシカゴ大学総長ロバート・ハッチンスのスピーチは大きな影響を与えました。

「われわれの時代の特徴のうち、最も予期せざるものは、人の生き方において、あまねく瑣末化が行きわたっていることである」と人間同士のコミュニケーションの回復をはかり、対話を重ねることの重要性をハッチンスは指摘しました。これを機に、米アスペン研究所が学者、芸術家、実業家たちが日常の煩雑さから解放されてゆっくり語り合い、思索するための理想的な場を提供する組織として設立されました。

この後、60 年余にわたり、人間、文化、社会、自然、世界の直面する問題を、普遍的価値に根ざして思索し、対話し、理解を深めて、現代的意味を再発見してもらうことをめざしたリーダーシップ・セミナーは、変わることなく開催されております。

このセミナーに大きな触発を受けた経営者によって 1998 年、日本アスペン研究所が設立されましたが、日本独自のプログラムとそれを支える優れたアカデミアの先生方のご尽力により、拡大を続けております。

現在、企業の幹部層を対象にしたセミナーをはじめ、中央省庁幹部職員向けセミナー、高校生向けのセミナーに至るまで、年間 20 回を数えるまでに成長を遂げており、日本アスペン研究所の果たす役割は益々大きくなっていると思われます。

アスペン・セミナーの大きな特徴は、古典をもとに対話を重ねていくことによって、ものごとを相対的に捉え、新しいもの、新しい考えをつくり出していくことだと思います。

特にグローバル化が進展する中、世界を舞台に活躍できる人材が求められており、異なる文化や宗教、社会背景を理解したうえで、多様な価値観に適応できる人間力が益々重要になると考えます。

今後、日本の産業界へアスペン・セミナーの更なる普及を図るとともに、世界各国で展開しているアスペン研究所との連携をより強固なものとし、日本アスペン研究所の更なる発展に貢献させていただきたいと考えております。

A S P E N

# 「アスペン・セミナー」について

アスペン・セミナーは、人間、文化、社会、自然、世界が直面する問題を、普遍的価値をもつ古典を素材に、対話を通じて思索を深めることで、以下のことを目指しています。

## このセミナーが目指すもの

- 自らの思考を鍛え直し、他者の思考を理解し、新しい視点や発想を見出すことにつなげます。
- 対話を通して多様な価値観と向き合い掘り下げて考えることで、洞察を深め、自分自身の価値軸を見つめ直します。
- 真のリーダーシップの条件である広い視野を形成し、「人柄に支えられた知」を培っていきます。

### 「古典」を素材に「対話」を重ね深い思索や内省を促進

参加者が共に一つの古典を読みながら、自分で考えたこと、感じたことなどを、謙虚に、素直に出し合い、対話することを基本に進めます。大学の講義のように、古典の読み方や解釈の仕方を専門家に学ぶのではなく、一人ひとりの参加者がテキストを自由に解釈し、著者との対話、他の参加者との対話、そして自分自身との対話を重ねることで内省を促し、多様な世界へ視野を広げることを目指します。

### 6つの主題に合わせ厳選されたテキストを使用

プログラムは、「世界と日本」「自然・生命」「認識」「美と信」「ヒューマニティ」「デモクラシー」という人間と社会を考えるうえで重要となる6つの主題で構成されています。テキストは、東洋・西洋の古典および現代の文献から精選し、抜粋・編集した日本独自のものを使用します。

### 知的対話を「モデレーター」と「リソース・パーソン」が支援

各セッションは、深い学識や官界・実業界で豊富な知見を持つ講師陣が支援します。このうち「モデレーター」は、参加者間の対話を活発化させると同時に、話の流れを適切な方向に導きます。また「リソース・パーソン」は、各専門の立場から対話の質を高め、実り多きものとするために節度ある助言を行います。

## 様々な体験を積んだ上で「自分を再構築する」素晴らしさ

**村上 陽一郎**
日本アスペン研究所 副理事長
東京大学 名誉教授
国際基督教大学 名誉教授

日本アスペン研究所の活動に関わらせていただくようになって、十年近くが過ぎました。エグゼクティブ、ヤング、そしてジュニアと、セミナーの種類も増え、扱うテキストも、それなりに大きな量になりました。永年大学務めをしている人間にとって、領域違いとは言え、当然読んでおくべきものと自分に言い聞かせていた著作も、そのなかには含まれていましたが、正直なところ、初めてぶつかったテキストも、決して無くはありませんでした。それだけでも、セミナーは、自分にとっても、毎回毎回が楽しくて、少しばかり苦しい「勉強」になっています。参加者の方々も、恐らく同じ思いをしていらっしゃることでしょう。名前は知っていても、一度も取り組んだことのない古典、それにじっくり対面し、静かに対話を交わすことは、それだけで、かけがえのない知的な喜びが得られるでしょう。教養のドイツ語は〈Bildung〉ですが、英語の〈building〉とさして変わりはありません。要するに、「自分を磨き、自分を造り上げる」ことです。もともと人間が「自分を造る」のに最も大切な時期は、青春時代でしょうが、一度社会に出て、様々な体験を積んだ上で、あらためて、「自分を再構築する」、これも素晴らしいことだと信じています。

## 古典は真のリーダーに不可欠の栄養剤

**猪木 武徳**
日本アスペン研究所　理事
青山学院大学大学院　特任教授

一緒に古典を読みながら対話を重ね、人間への理解を広げ、深める。生きた知恵を得ることで、勇気や公正の精神に基づく優れた判断力を養う。そうした理念のもとで、永い時を経て生き残った人類の知的遺産と向き合い、断片的な知識や情報ではない「実践的な公智」を磨くための道場としてアスペンのリーダーシップ・セミナーは生まれました。
未来に向けて少しでも何かを為そうとすれば、人間にとって変わることのない真実を学ぶためにわれわれは過去に目を向けなければなりません。古典には、賢者たちが見つけ出した人間と社会の秘密が語られています。相手の立場に身を置き、私的な欲求で頭と心を曇らせることなく、長い目で全体のことを考えることのできる真のリーダーにとって、古典は不可欠の栄養剤と言えるでしょう。

# 「エグゼクティブ・セミナー」と「ヤング・エグゼクティブ・セミナー」

日本アスペン研究所では、主に2つのセミナーを主催しています。「エグゼクティブ・セミナー」は、異質で多様なバックグラウンドを持つ、さまざまな分野のエグゼクティブ層を対象とするリーダーシップ・プログラムです。国際化や複雑化が進む現在、各界のエグゼクティブには高度な判断が求められます。そのような方々に、対話のセッションに加え、懇話会、文化プログラムを通して、豊かな時間を提供します。

「ヤング・エグゼクティブ・セミナー」は、エグゼクティブ・セミナーを土台とし、将来、役員や幹部を目指すマネージャーを対象に開発されました。これからの日本社会を担う世代に対し、早期から古典を通じた対話の機会を提供します。

## 【 エグゼクティブ・セミナー 】

| | |
|---|---|
| 対象者 | 企業の役員・幹部社員、官公庁の幹部、学者・研究者、政治家、NPO・NGO関係者など<br>1回のセミナーにつき15～20名 |
| 開催期間 | 5泊6日 |
| その他 | ご夫妻でのご参加を歓迎いたします<br>（ご同伴者はオブザーバーとなります）。 |

## 【 ヤング・エグゼクティブ・セミナー 】

| | |
|---|---|
| 対象者 | 主に企業の30～40代のマネージャー層<br>1回のセミナーにつき15～20名 |
| 開催期間 | 2泊3日 |

当セミナーでは下記の先生方を中心に「モデレーター」、「リソース・パーソン」をご担当いただいています。

| | |
|---|---|
| 村上　陽一郎 | 東京大学 名誉教授<br>国際基督教大学 名誉教授 |
| 猪木　武徳 | 青山学院大学大学院 特任教授 |
| 関根　清三 | 東京大学大学院 教授 |
| 渋谷　治美 | 埼玉大学 名誉教授 |
| 中村　桂子 | JT生命誌研究館 館長 |
| 塩川　徹也 | 東京大学 名誉教授 |
| 橋本　典子 | 青山学院女子短期大学 教授 |
| 荻野　弘之 | 上智大学 教授 |
| 堂目　卓生 | 大阪大学 教授 |
| 瀧　一郎 | 大阪教育大学 教授 |

各界の優れた方にもモデレーター、リソース・パーソンをご担当いただいています。
（氏名順不同・敬称略）



SEMINAR

## 古典との対話、他者との対話を粘り強く、弛みなく。

第4回エグゼクティブ・セミナー参加
**株式会社東芝 相談役　西田 厚聰 様**

経営空間のグローバルな広がりの中で、企業をとりまく環境は日々激しく変化します。こうした変化の本質を洞察しつつ俊敏に対応し、自らも変わっていくことがグローバル競争を勝ち抜く条件です。企業の活動は、様々な事柄を的確に判断し、タイミングよく決断し、決断したことを完全に実行することが重要ですが、判断を間違うと取り返しがつきません。日頃から「広く深く考える」ことで豊かな構想力を養い、判断力を地道に磨く必要があります。そのためには、古典との対話、他者との対話を粘り強く、弛みなく続ける以外に方途はありません。

## 知的な回復力を高める知恵がアスペンにありました。

第16回エグゼクティブ・セミナー参加
**日本アイ・ビー・エム株式会社 会長　橋本 孝之 様**

2003年の夏、日ごろ仕事で使う左脳に加え右脳を全開にしながら、新しいものに出会う爽快感を味わったことを今でも鮮明に覚えています。世の中はICTの進歩によりグローバル化が加速し、新たな価値創造を促されていますが、この“知的ボクシング”に勝つには、普遍的な価値に根ざした回復力を高める必要があります。その知恵がアスペンにはありました。専門性に加え大局的に物事を見る力、他人にインパクトを与えるコミュニケーション能力への気づき…今思えば、あの1週間はその後の会社人生での多くのチャレンジへの序章でした。

## 知的な思考空間を共有する経験で気づいた”自分の軸“の必要性。

第4回エグゼクティブ・セミナー参加
**NPO法人J-Win 理事長　内永 ゆか子 様**

セミナーでは、考えて考え抜きました。テキストをベースとした参加者との対話は、目に見えないジグソーパズルを皆で作り上げるような、知的な思考空間を共有する経験であり、日常生活や生き様についても、もっと深く考えなければならないと感じました。グローバルに仕事や活動をしていると、宗教観や倫理観、自分のアイデンティティをどれだけしっかりした軸で持っているかが、とても大事であることを実感します。私たち日本人は、自分の軸をもっときちんと作らなければならない。アスペン・セミナーは、そんなことも気づかせてくれました。

# 受託セミナー

「受託セミナー」は、企業や団体からの依頼・協力を受け、毎年開催しています。

## 人事院・日本アスペン・セミナー

2003年9月に人事院と協力し、幹部行政官セミナー（アスペンメソッド）を開発。中央省庁幹部を対象に3泊4日のセミナーを開催し、以降、参加者からの極めて高い評価を受けています。

## 石川・日本アスペン・セミナー

2004年10月に石川県幹部職員、民間企業幹部を対象に、3泊4日のセミナーを開催。後に富山、福井の両県幹部職員も加わり、北陸3県のセミナーとなっています。

## アスペン／ベルリッツ グローバル・リーダーシップ・セミナー

2010年12月にベルリッツコーポレーションとの協業により、ベネッセアートサイト直島（香川県）にて3泊4日のセミナーを開催。以降、通常のアスペンプログラムに加え、現代アートとのふれあいや、グローバル・リーダーとの対話を通じてリーダーシップを磨くセミナーとなっています。

# 高校生のためのセミナー

「アスペン・ジュニア・セミナー」「高校生のためのアスペン古典セミナー」は、将来を担う高校生を対象にしたプログラムです。古典を素材に対話しながら「より善く生きるとは」「何のために学び、働くのか」「大切にしたい価値」といった人生の課題について考えます。

創立15周年記念事業の一環として、2013年8月に埼玉県さいたま市で「高校生のためのアスペン古典セミナー」を開催しました。

## アスペン・ジュニア・セミナー

創立10周年を記念して2008年に発足した、首都圏の高校生を対象にしたセミナーで、毎年都内で開催しています。

## 高校生のためのアスペン古典セミナー

地域の教育関係者の協力のもと、会場は高校の施設をご提供いただき、進行役は地域の高校の先生も務めます。今後、各地域でセミナーを展開し、より多くの高校生へ「古典に親しみながら対話する機会」を提供していきます。

SEMINAR

**企業が、地球環境や人類社会のためになる存在となるように。**

第24回エグゼクティブ・セミナー参加
**三菱商事株式会社 常勤顧問　藤山 知彦 様**

企業にとって、決断の悩みは益々深くなっています。経済理論を超える金融の動き、先端科学技術の進展、社会正義についての議論の変容などがその背景にあり、企業はもはや短中期の利潤を追うだけの存在ではなく、地球環境や人類社会のためになる存在である必要があります。古典を読んでもその解答が書いてあるわけではありませんが、アスペンセミナーを修了してみると、現代の難問に立ち向かう思考力やヒューマニティが向上していることに気づかされます。

**それは他者との出会いによって自らが啓発される「他己啓発」。**

第22回ヤング・エグゼクティブ・セミナー参加
**MSD 株式会社 流通本部 流通戦略部 部長　柳橋 秀樹 様**

本セミナーを介した人との出会いと濃密な学びは、私に大きな化学反応を起こしてくれました。価値観の差異を前提に、日頃ほとんど触れることのない古典というテーマのもとで、参加者のみならず作品やその作者と「対話」をする。その中で各々の価値観に目に向け、共に新たな価値観に気づくことのできる本セミナーは、他者との出会いによって自分を啓発していく「他己啓発」と言えるのかも知れません。企業人であり一般人でもある我々にとって、人生観、倫理観、世界観等を真剣に考える大いなる契機となった本セミナーを心から推奨します。

# アスペン海外ネットワーク

日本アスペン研究所は、日本、米国、ドイツ、イタリア、フランス、インド、
ルーマニア、スペイン、プラハ(チェコ)、メキシコの全10カ国で構成されている
国際的なネットワークのメンバーです。

**米国アスペン研究所** (1950年設立)
http://www.aspeninstitute.org/

**フランスアスペン研究所** (1986年設立)
http://www.aspenfrance.org/

**スペインアスン研究所** (2010年設立)
http://www.aspeninstitute.es/

**日本アスペン研究所** (1998年設立)
http://www.aspeninstitute.jp/

**ドイツアスペン研究所** (1974年設立)
http://www.aspenberlin.org/

**インドアスペン研究所** (2004年設立)
http://www.aspenindia.org/

**プラハアスペン研究所** (2012年設立)
http://www.aspeninstitute.cz/

**イタリアアスペン研究所** (1984年設立)
http://www.aspeninstitute.it/

**ルーマニアアスペン研究所** (2006年設立)
http://www.aspeninstitute.ro/

**メキシコアスペン研究所** (2014年3月設立)
http://www.aspeninstitutemexico.org/

各国アスペン研究所は、それぞれの独自のポリシーで運営されています。

**一般社団法人日本アスペン研究所**

〒106-0032　東京都港区六本木6-15-21 ハークス六本木ビル2 階
TEL 03(6438)9208
FAX 03(3405)1668

http://www.aspeninstitute.jp/